

平成22年度事業報告

はじめに

財団法人九州ヒューマンメディア創造センター（ヒューマンメディア財団）は、平成8年4月の設立以来、産学官の協力体制の下、地域経済社会の発展に資するためICT（情報通信技術）利活用を主領域とする様々な事業を実施してきた。

平成22年度は、ICTの利活用により、地域の資源やエネルギーの節減・地域企業の活力増進・地域住民の生活の利便性向上を目標とする「デジタルエコ社会」、「デジタル成長社会」、「デジタル快適社会」の3つのビジョンの下、その実現のために以下の事業領域に取り組んだ。

- 1 先進的なICT戦略の提言
- 2 地域ICT基盤の整備・活用による地域活性化
- 3 地域課題に対応したICTプロジェクトの提案・推進
- 4 高度なICT人材を育成するサービスの提供

具体的な施策として、財団ビルのスマートビル化実証事業、商店街活性化プロジェクトの推進、医療部門におけるeラーニングシステムの構築支援、及び、介護分野におけるICTの利活用などに取り組んできた。

また、北九州e-PORT構想の推進についても、サーバインキュベートの推進や次期プランであるポストe-PORT（フェーズⅢ）構想策定の検討を行ったところである。

今後とも引き続き、産業界や学術研究団体等とのネットワーク・協業を通して、ビジョンの実現に努めるとともに、財団の使命である地域産業振興に資するべく全力を傾注していくものである。

各事業の詳細

I 先進的なICT戦略の提言

1 e-PORT次期プランの策定

平成23年3月に終了する「e-PORTフェーズIIプラン」に続く、次期e-PORTプランを策定するため、「ポストe-PORT検討委員会（委員長：北九州市立大学大学院マネジメント研究科 城戸 宏史 教授）」を設置し、素案の検討を行った。

第2回委員会	22年6月30日	<ul style="list-style-type: none">・第1回ポストe-PORT検討会の概要・第1回検討委員会での主な論点と今後の方向性について・今後のe-PORT構想と取り組むべき事項（案）・今後のスケジュール説明と意見交換
第3回委員会	22年11月22日	<ul style="list-style-type: none">・第2回ポストe-PORT検討委員会での懸案事項について・ポストe-PORT構想について・今後のスケジュール説明と意見交換
第4回委員会	23年3月15日	<ul style="list-style-type: none">・第3回ポストe-PORT検討委員会での決定事項について・北九州e-PORTフェーズIIIプラン（素案）について・今後のスケジュール説明と意見交換

II 地域ICT基盤の整備・活用による地域活性化

1 北九州e-PORT推進協議会の運営

「北九州e-PORT推進協議会」の事務局として、総会・幹事会・交流会などの開催や情報収集・提供、e-PORTセンター利用促進のための広報業務を実施した。

[e-PORT協議会の概要]

構成：産学官 173 企業・団体

会長：中央大学総合政策学部教授 大橋 正和 氏

[総会・交流会・幹事会・研究会の概要]

名称	開催日	テーマ	講演者	参加者
第7回幹事会	22年7月12日	<ul style="list-style-type: none">・役員の選任について（新任者紹介）・平成21年度活動報告について・平成22年度活動計画について		18人
第9回総会	22年7月12日	<ul style="list-style-type: none">・1号議案「平成22年度活動計画について」・2号議案「次期e-PORT構想について」		46人

第16回 交流会	22年7月12日	「ローカルチェーンという名の ビジネスモデル～ITの積極的応 用～」	株式会社サンキュード ラック代表取締役社長 兼有限会社ベーシック プラス代表取締役社長 平野 健二 氏	75人
		企業プレゼン テーション	「電子書籍元年～iPad Kindle スマートフォ ンが変えるもの～」 「電子書籍を使った新たなビジネスモデルへ の取り組み」 株式会社 インコムジャパン 代表取締役 藤井 豊美 氏	
			「九州-韓国南東部 IT 広域連携プロジェクト」 イーコムジャパン株式会社 代表取締役社長 岡崎 真吾 氏	
第8回 幹事会	22年11月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の選任について（新任者紹介） ・平成22年度活動中間報告 ・ポストe-PORT（フェーズⅢ）構想について 		20人
第17回 交流会	22年11月30日	「農業の戦略的ICTの利活用 ～変わりはじめた農業の産業構 造～」	有限会社 松本農園 取締役 松本 武 氏	59人
		企業プレゼン テーション	「インターネットを使った海外市場開拓」 アリババマーケティング株式会社 市東 浩一 氏	

※会場は全て財団ビル マルチメディアホール

2 e-PORTプロモーション活動

北九州市及び周辺地域の企業・団体を対象にe-PORT活用事例等を紹介するセミナーを実施した。

[セミナー実施概要]

名 称	開催日・会 場	テ ー マ	基調講演	参加者
低炭素 社会の 実現に 向けた スマート コミュニ ティ元年	22年9月2日 ステーションホテル 小倉	『低炭素社会の実現に 向けたスマートコミュニ ティ元年』 ～ビジネスに結び付け るクラウドと地域エネ ルギー社会実現に向け て～	「クラウドコンピュ ーティングがもたら す変革」 富士通株式会社 サービス ビジネス本部 サービスソ ルタセンター 西日本地 区担当 担当本部長 木元 靖治 氏	106人
			「スマートコミュニ ティの可能性」 NTTデータ経営研 究所 社会・環境戦略 コンサルティング本部 本部長 パートナー 村岡 元司 氏	
	北九州e-PORT 活用事例紹介	①北九州市の情報産業 振興の取組みと北九 州市e-PORTの歩み	北九州市産業経済局 新産業振興課長 兼尾 明利 氏	
		②WEB動画の可能性～ みんなで作ろう！ WEB-TV in 北九州～	創映株式会社 WEB 事業部 クリエイティ ブディレクター 朝山 和雄 氏	

平成 22 年度は福岡ギガビットハイウェイ（FGH）回線の廃止に伴い、福岡 NOC から e-PORT への回線を、FGH 回線から九州通信ネットワークの VLAN へ移行を実施した。

〔LGWAN-ASP サービスメニュー〕

CMS、グループウェア：ミシマ OA システム(株)

電子申請システム：(株)BCC

〔電子申請サービス運用状況〕	18 年 1 月	北九州市が運用開始
	18 年 10 月	久留米市が運用開始
	19 年 4 月	福岡市が運用開始

6 メディア道場の運営

地域の映像系・コンテンツ系企業に対し、AIM7 階に設置した映像編集室・レコーディングスタジオ・セミナー室等の施設及びビデオカメラ・マイク等の映像制作機器を、低廉な価格で引き続き貸し出しし、コンテンツ産業の支援を行った。

〔施設・機材貸出実績〕

編集スタジオ	レコーディングスタジオ	セミナー室	機材利用
120 回	24 回	32 回	458 回

7 メディアインキュベートの運営

地元の映像系・コンテンツ系企業に対し、AIM7 階のインキュベートルームを提供し、家賃の補助や北九州テレワークセンターと連携した経営相談等の支援を行った。

〔メディアインキュベートルーム入居企業〕

企業数	貸出床面積
5 社	280.93 m ²

Ⅲ 地域課題に対応した ICT プロジェクトの提案・推進

1 スマートビル化実証事業

「デジタルエコ社会」の実現に向けた先進的かつ具体的な取り組みとして、財団ビルの敷地内に風力発電設備や太陽光発電設備を導入し、再生可能エネルギーの利用を推進するとともに、「北九州スマートコミュニティ創造事業」の一環として市民や事業者が「考え」「参加する」きっかけとして、そこから得られたデータの見える化を実施した。

(1) 風力発電設備の導入

(株)安川電機が製造した高効率で消音型の風力発電設備（システム）を導入した。

〔風力発電設備の概要〕

システム構成	風車本体、風力発電用パワーコンディショナ等
風車	風レンズ風車
定格出力	3 kW（風速 10m/s 時）

(2) 太陽光発電設備の導入

新エネルギー導入促進協議会が公募した「平成 22 年度地域新エネルギー等導入促進事業」の補助を受け、C I S 太陽電池モジュールを導入した。

[太陽光発電設備の概要]

システム構成	太陽電池モジュール、パワーコンディショナ等
太陽電池モジュール	C I S 太陽電池モジュール
定格出力	10kW

(3) 見える化システムの導入

小型風力発電設備及び太陽光発電設備のパワーコンディショナ、風向風速計、気温計、日射計等からデータを収集・加工し、リアルタイムに表示するとともに、警報の発信・遠隔操作等の付属機能を備えたシステムを構築した。

(4) デジタルサイネージの導入

地域のエネルギー情報の「集約・見える化」を実施するため、風力発電設備及び太陽光発電設備から得られる再生可能エネルギーの情報をリアルタイムで表示するデジタルサイネージの装置を当財団のエントランスに設置した。

(5) スマートオフィス化構想に関する検討

「スマートビル化実証事業」の核の一つであるビル内の省エネ設備の導入や省エネネットワークスタイルの確立を目指すスマートオフィス化実証プロジェクトの基本計画策定委員会（以下、検討委員会と称す）を設置し、今後の具体策の検討を行った。

検討委員会は計 3 回実施し、その協議内容を、『九州ヒューマンメディア創造センタースマートオフィス化構想に関する検討報告書』として取り纏めた。

2 商店街活性化プロジェクトの推進

(1) 北九州市ユビキタスマール構築モデル事業

平成 21 年度の総務省地域情報通信技術利活用推進交付金を活用して整備した小倉北区魚町商店街の公共無線 LAN、デジタルサイネージ、IC ポイントカード等の ICT 基盤は、平成 21 年度中に整備が完了し、平成 22 年 4 月に供用を開始した。

ア 完成記念イベントの実施

整備した基盤を活用した新サービス創出の機運醸成に向け、その完成を広く周知することを目的として、完成記念式典及び記念イベント（魚町ユビキタスフェスティバル）を開催した。

[完成記念式典(オープンセレモニー)]

日 時 平成 22 年 4 月 23 日

場 所 魚町商店街アーケード内特設会場

内 容 デジタルサイネージの点灯式

[記念イベント]

項目	実施日・場所	内容
Twitter 鬼ごっこ in 魚町	22年4月24日～25日 魚町商店街アーケード内	Twitter を利用した鬼ごっこをアーケード内で展開。 ※街内にいる鬼が Twitter で現在地情報をつぶやく。
セカイカメラで銀ぶらしよう！	22年4月24日～25日 魚町商店街アーケード内	カメラと空間情報を融合したアプリケーション「セカイカメラ」を利用して、魚町を散策体験。
魚町ビジョンで送る魚町応援メッセージ	22年4月24日～25日 魚町商店街アーケード内特設会場	魚町商店街を盛り上げるメッセージの収録、放映
USTREAM で魚町を世界に！	22年4月23日～25日	魚町ユビキタスフェスティバルの様子を USTREAM のサイトからネットでライブ中継。

イ 事業運営体制の確立

運営当初はヒューマンメディア財団が運営主体となったが、商店街振興組合が平成22年4月に設立した株式会社タウンマネジメント魚町（TMU）が事業主体となって各種業務を実施する体制を確立し、商店街による自立的な運営に移行させた。

(2) 北九州 ICT インテリジェントエリア実験

魚町の ICT 基盤を活用した新しいサービス事例の検討を目的として、九州工業大学の PBL (Project Based Learning、プロジェクトを実際に体験し課題解決を習得させる育成手法) と連携を図り、学生の主体的な活動を通じて、10月から4カ月間に渡って、新サービスの検討と具体化、そのシステム設計及び構築、市民参加による検証等を行う ICT 実証実験を実施した。

[ICT 実証実験の概要]

集客や回遊性向上を図ることを目的に、携帯電話 (Felica 対応機種限定) を使って、IC カードリーダーやデジタルサイネージ、公共無線 LAN を活用した ICT スタンプラリーを実施した。

日時：平成23年1月16日

主催：北九州市、九州工業大学、ヒューマンメディア財団

(3) 魚町における ICT 基盤を活用した新サービス創出支援事業

整備した ICT 基盤を活用して店舗経営の効率化や魅力的な都心空間形成に資する新サービスを創出するため、優秀な新サービス創出のアイデアを持つ事業者からの提案に対して、情報システムの設計・構築等の業務を委託し、早期事業化を図る支援事業を実施した。

[事業の概要]

支援事業名	内容	提案者
魚町ビジョンを基盤とした中継サービスの実施 及び USTREAMスタジオ、魚町アーカイブウェブサイトの新設によるユビキタスマール事業の推進	街の回遊性向上のため、都心部周辺のイベントをUSTREAMを活用して魚町ビジョンにライブ中継するサービス。併せて、撮りためた映像をいつでも閲覧できるアーカイブサイトを構築する 等。	(株)タウンマネジメント魚町、(株)エイトクリエイト
行政情報配信サービス「情報なう.COM」	市役所や警察等が発表する情報を自動的に収集し、デジタルサイネージ運営会社等に、地域情報として配信するサービス。集めた情報には位置情報やカテゴリ等のタグ付けをし、受信者が希望する情報・形態で自動的に生成、配信するシステムを確立。	(有)ボード

3 福岡看護 eラーニング研究会 (FNET) の支援

看護師を対象とした eラーニングシステムの開発、供用を目的とする福岡看護 eラーニング研究会の事務局として、eラーニングサービスの運営支援に取り組んだ。

(1) FNETの概要

コンテンツ	BASIC I (約 500 問) 〔医療安全管理、院内感染防止、個人情報保護、コミュニケーションスキル、疾病、医療技術〕
受講料	法人 100,000 円/年、10 I D 個人 9,600 円/コース
会員	法人 3 団体、個人 1 人(平成 23 年 3 月末現在)
幹事代表	中村 秀敏 氏(小倉第一病院) ほか 16 名

(2) 第 7 回日本 e - Learning 大賞受賞と記念シンポジウム開催

地域の医療機関が共同で安価に利用できる、使い勝手の良いサービスの仕組みが評価されて「第 7 回日本 e - learning 大賞『厚生労働大臣賞』」を受賞。これを記念して受賞記念シンポジウムを開催した。

第 7 回日本 e - Learning 大賞「厚生労働大臣賞」受賞記念シンポジウム	
22 年 8 月 7 日	ヒューマンメディア財団マルチメディアホール
◆講演：「実現性を帯びてきたもうひとつの学び」	NPO 法人日本イーラーニングコンソシアム会長 NTTラーニングシステム株式会社企画調査室長 小松 秀圀 氏
◆講演：「iPad が eラーニングを変える」	キャストリア株式会社代表取締役 山脇 智志 氏
◆講演：「モチベーションの『健康診断』ができる eラーニングの新たな展開」	小倉第一病院 副院長 中村 秀敏 氏

(3) コンテンツの充実

eラーニングサービスの更なる充実を図るため、現場から要望の大きい古武術介護(古武術を活用した介助)を紹介する動画コンテンツを制作。また、現在運用中の BASIC I の内容を充実させた BASIC II の作成にも取り組み中で

ある。

(4) eラーニングサービス市場調査の実施

研修事業を展開する企業との連携、類似サービス事業者からコンテンツ提供の引き合いなど、事業確立、拡大の目途が立ってきた。この機に、今後の速やかな事業化を推進するため、事業化に不可欠な予想市場規模や類似サービスに関する調査を実施した。

- ① 医療従事者向けeラーニングに関する市場動向調査
- ② 医療従事者向けeラーニングサービス創出に関する基礎調査

4 農業におけるICT活用の検討

農業分野へのITC化を進めるべく、農産物の生産・流通業者を含めたプロジェクトを立ち上げ、農業分野でITC化の実現性及び課題の検討を実施した。

農業支援が可能と思われる7つの機能を「農業流通支援システム」と名付けて、システム化を検討した。

検討の結果、「インショップ支援」「出荷管理支援」の2機能について、プロトタイプシステムの構築を完了した。今後、プロトタイプシステムについて検証を行い、システムの改良及び現場での活用等を検討していく。

5 大学におけるICT活用支援

学士力の確保や教育力の向上を目的とする、地域の大学の教育システム構築を支援した。

具体的には、教職員のニーズ整理・要件定義の策定を支援し、既存システムとの連携を検討した。

[教育支援システムの概要]

カリキュラム編成や時間割編成を可能とした「開講科目・時間割登録システム」

6 福祉分野におけるICT利活用の検討

ICTの導入が遅れている福祉、介護分野へのICT活用方策の研究として、研究会の開催や音声による入力支援システムの試作検証、介護業務向け入力支援システムの検討を行った。

(1) 研究会開催

音声認識技術や予測変換技術など、様々な入力支援技術等の活用可能性を調査し、現場の事務軽減や効率化を図る入力支援システムについて検討する研究会を開催した。

参加企業(5団体)	株式会社ヴィンテージ・プロダクションズ&コンサルティング、株式会社C&Gシステムズ、安川情報システム株式会社、株式会社ネットワーク応用技術研究所、ヒューマンメディア財団
ヒアリング施設(2施設)	北九州福祉サービス株式会社、株式会社フジケア

(2) 音声による入力支援システムの検証

音声入力技術を用いて訪問介護業務における書類作成の効率化を図るアプリケーションを試作し、これを、介護業務従事者に実際に操作して貰うことで、福祉分野における音声入力による業務支援の有効性について検証した。

[対象施設・対象者]

対象施設	対象者	実施日時
北九州福祉サービス株式会社 小倉北サービスセンター	現役訪問介護員 2 名、管理 者 1 名	3 月 16 日
株式会社フジケア ヘルパーセンター	現役訪問介護員 1 名、管理 者 1 名、 間接業務従事者 1 名	3 月 16 日

(3) 介護業務向け入力支援システムの検討

介護業務における各種入力業務の負担軽減を実現し、作業効率やサービス品質の向上を図る介護業務向け入力支援システムを構築するため、システムの方向性や要求定義について検討し、調査報告書としてまとめた。

IV 高度な ICT 人材を育成するサービスの提供

1 「北九州地区 ICT 産業集積・活性化のための高度人材育成」及び「IT 大学校」

北九州地区の情報サービス産業の集積・活性化及び高度 ICT 人材の育成を目指す人材育成研修を当財団セミナールーム等で実施した。

平成 20 年度に北九州地区の IT 関連技術者が習得すべき技術項目を体系化した「北九州版 IT スキル標準 (K T S S)」をベースに策定した研修プログラムで、4 コース計 10 講座を実施した。

受講生のアンケートからは、満足度は比較的高いが、企業ニーズとマッチしないため参加者が集まらない講座もあった。この結果を踏まえ、次年度のプログラム策定のためのニーズ調査を実施した。

[開催状況概要]

【北九州地区 ICT 産業集積・活性化のための高度人材育成】

名 称	研修項目・講座	開 催 期 間	受講者
プロジェクトマネ ジメント応用講座	問題・課題解決管理研修	22 年 11 月 4 日～ 11 月 5 日(2 日間)	9 人
	品質管理研修	22 年 11 月 18 日～ 11 月 19 日(2 日間)	12 人
	外部委託管理研修	22 年 12 月 2 日～ 12 月 3 日(2 日間)	8 人
	プロジェクト計画実行管理 研修	22 年 12 月 16 日～ 12 月 17 日(2 日間)	8 人
ヒューマンスキル 研修	コミュニケーション能力向 上研修	22 年 8 月 5 日～ 8 月 6 日(2 日間)	9 人

【IT 大学校】

名 称	研修項目・講座	開 催 期 間	受講者
プロジェクトマネジメント養成研修	プロジェクトマネジメント (基礎編) 講座	22年8月30日～8月31日(2日間)	13人
	プロジェクトマネジメント (フォローアップ) 講座	23年1月14日(1日間)	5人
データベース中核 技術者養成研修	S Q L技術講座	22年10月12日～10月13日(2日間)	3人
	D B設計講座	22年10月18日～10月20日(3日間)	7人
	D B運用管理講座	22年10月25日～10月27日(3日間)	7人

2 組込系ソフト技術者養成研修

地域の情報サービス系企業が、組込みソフトウェア分野へ参入可能な基礎知識の修得を目的とした座学による研修を、当財団セミナールーム等で実施した。

座学研修終了後は、設計からテスト工程までの実際の組込み開発のプロセスに即した実務研修を、北九州地域で組込みに取り組む先進企業にて実施した。

座学講座の成果指標である E T E C クラス 2 試験 (社団法人組込みシステム技術協会 (J A S A) が実施する組込み技術者向け試験) では、参加 4 人のうち、700 満点で 650 点を超す受講生が現れ、一定の成果を得た。

[開催状況概要]

研修名称	研修項目・講座名	開催期間
座学研修	適性試験及び面接	22年 9月 6日～ 10月 5日 (20日間)
	C言語入門講座、ロボット入門講座	
	E T E C 対策講座、マイコン入門講座	
実務研修	インバータにおけるフェールセーフ機能開発	22年10月12日～ 11月9日 (20日間)
	産業用ロボットの制御支援システム開発	22年10月12日～ 11月12日 (23日間)

3 Ruby ビジネス支援

北九州市における新規ビジネスを創出するため、Ruby ビジネスを支援した。

※Ruby…まつもとゆきひろ氏により開発されたプログラミング言語で、手軽なオブジェクト指向スクリプト言語として世界的に普及した。近年のソフトウェア開発業務における開発期間の短期化と機能の高度化への対応が課題となっている中、普及が促進されている。

(1) Ruby セミナー等の開催

ア R u b y 勉強会の誘致

北九州市における Ruby ビジネスの拡大と人材育成を推進するため、Ruby ビジネス・コモンズ (R B C) が実施する勉強会を北九州市に誘致した。

項目	日時・場所	主催
クラウド環境を利用したRuby勉強会	22年10月30日 北九州テレワークセンター	RBC ヒューマンメディア財団
「agile開発と分散システム」をテーマとしたRuby勉強会	22年11月20日 北九州テレワークセンター	RBC ヒューマンメディア財団

イ 「北九州Rubyビジネス推進セミナー」の開催

北九州市におけるRubyビジネスの拡大と人材育成を推進することを趣旨として、セミナーを開催した。

開催日 平成22年11月19日
 会場 北九州テクノセンター 多目的ホール
 プログラム 第一部講演 「持続可能なRuby」
 Ruby開発者 まつもと ゆきひろ 氏
 第二部講演 「北九州市とRuby」
 NPO法人Rubyビジネス・コモンズ 会長 最首 英裕 氏
 主催 ヒューマンメディア財団
 共催 財団法人北九州産業学術推進機構
 参加者 91名（市内参加企業28社）

(2) Rubyに関する調査の実施

福岡県が地域企業の競争力向上等を目的に普及に力を入れ、生産性が高いといわれているプログラム言語Rubyについて、今後の財団の研修事業や各種プロジェクトにおいて、Rubyをどう位置付けるかについて検討するため、Rubyをとりまく環境や動向に関する調査、試作による他言語との生産性比較等を行い、開発業務におけるRubyの有効性を評価する調査業務を実施した。

4 北九州デジタルクリエイターコンテスト(KDCC)

地域のデジタルコンテンツクリエイターの発掘、コンテンツ産業の育成を目的として「北九州デジタルクリエイターコンテスト2011」を開催した。

また、募集に先立ち、講演会を開催した。

[講演会概要]

日時 平成22年11月16日
 場所 西日本工業大学（小倉キャンパス）3階大講義室
 目的 募集テーマの告知、デジタルコンテンツ業界の最新情報の提供
 参加者 150名（満席）
 内容 中谷日出氏（NHK解説委員）、サンプルザ中野くんによる『未来をひらくデジタルコンテンツ』講演会

[募集概要]

募集期間 平成22年11月1日～23年2月14日
 募集テーマ 北九州市の魅力を再発見し、わがまち北九州を内外に発信する
 応募作品 178作品

公開審査会 平成 23 年 3 月 5 日
 場 所 西日本工業大学 (小倉キャンパス)3 階大講義室
 入選作品 各賞 15 作品 入選 26 作品
 審査員 中谷 日出 氏 (NHK解説委員)
 サンプラザ中野くん (ロック歌手)
 宝珠山 徹 氏 (西日本工業大学デザイン学部准教授)
 梯 輝元 氏 (株式会社タウンマネジメント魚町代表取締役社長)
 愛甲 秀則 氏 (北九州市企画文化局シティプロモーション部長)
 発表展示 小倉北区魚町商店街「魚町ビジョン」で放映
 (平成 23 年 4 月 11 日～5 月 8 日)
 WEB (URL: www.kdcc2011.com) で入賞作品公開
 作品DVD-ROMを作成(100 枚、入選者・プロモーション用)

V その他

1 広報活動 (情報誌「H U - D i A」の発行)

当財団の事業や活動状況を分かり易くタイムリーに掲載した情報誌「H U - D i A」を発行した。

[H U - D i Aの概要]

発行月 平成 22 年 6 月 (第 19 号)

部 数 1,200 部

内 容 「平成 2 2 年度事業計画」及び「平成 2 1 年度事業報告」
 「北九州市施策のご紹介」、「関連団体紹介 F N E T」
 「T o p i c s インキュベート」

配布先 情報関連企業、各種団体、賛助会員、K I P 役員・評議員 他

2 関係団体との連携と交流協力

(1) K I P (北九州情報サービス産業振興協会) の運営

北九州地域の情報サービス関連企業で組織された K I P (北九州情報サービス産業振興協会) の事務局を担い、交流事業、人材育成、調査研究等の活動を支援した。

[K I P 会員数] 平成 23 年 3 月 31 日現在

総会員 (企業・団体)	うち正会員 (企業・団体)	うち賛助会員 (企業・団体)
62	36	26

[K I P の主な事業]

・人材育成事業：K I P スクール

C # 入門・基礎コース、J A V A 入門・基礎コース

・交流事業

K I P サロン (講演会、交流会)、経営者交流会、中堅社員交流会

(2) I C T 研究開発関連団体との連携

I C T 利活用の最新の動向・事例を把握すると共に、産学官の連携を推進する

ため、九州インターネットプロジェクト（QBP）、(社)九州テレコム振興センター（KIAI）等、ICT関連団体との連携を行い、その活動を支援した。

[QBPの活動概要]

総会記念シンポジウム 平成22年7月12日

研究交流会 平成22年9月29日、平成23年2月21日

ワークショップ 平成22年11月12～13日

[KIAIの支援]

総会及び総会記念シンポジウム 平成22年6月23日

3 財団ビル運営（特別会計）

ヒューマンメディア財団ビル（八幡東区東田）のテナント入居率は約91%と高率を維持している。

平成22年度は、4,400万円をビルの修繕積立金及びビル付属設備積立金に充てるとともに、主な改修としては、

- ・全館共用部のダウンライトをLED化
- ・セキュリティシステムにおける非接触型カードリーダーへの交換
- ・高性能監視カメラシステムの設置

などを行った。

また、自主防災体制の充実を図る目的で、平成22年11月17日に財団ビル就業者約100名が参加して、総合消防訓練を行った。

[財団ビルの入居状況（平成23年3月31日現在）]

○入居企業・・・8社（入居率90.6%）

○就業者数・・・約170名

フロア	入居企業名
7階	新日鉄ソリューションズ(株)
6階	セイコーエプソン(株)
5階	
4階	
3階	(株)インフォメックス、データキューブ(株)、(株)ソフトサービス、(株)九州テン、ビズ・コレジオ(株)、(株)ワンビシアーカイブズ
2階	セイコーエプソン(株)
1階	ヒューマンメディア財団